

こどもの国は5月5日に50周年を迎えました



第546号 2015年6月号

発行 社会福祉法人こどもの国協会
〒227-0036 横浜市青葉区奈良町700(☎045-961-2111)
編集・制作 (株)朝日マリオン21 印刷 (株)朝日プリンテック

こどもの国ニュースの用紙は
王子製紙株式会社のご提供によるものです

- 2 春のフォトコンテスト
牧場さんぽ
- 3 ユウスゲすくすく
連載コラム「自然の扉 ひらけごま」
- 4 JAXA國中さん熱弁
歴史ウォッチ



5000個の風船、大空に

開園50周年記念日となる5月5日のこどもの日、入園者のみなさんと一緒に5000個の風船を一齐に青空に放ちました。色とりどりの風船に歓声がわきあがりました。この日の入園者は1万8千人以上で、残り少ないゴールデンウィークの一日を、思い思いに過ごしていただきました。50歳となったこどもの国は、これからも豊かな自然を大事にし、のびのびと遊べる環境を守っていきます。



開園50年 1万8千人が祝う

● バルーンリリース

風船は天然ゴム素材で、自然に分解されて土にかえるものです。入園者の分として2000個用意しましたが、受付開始から10分でなくなってしまうほどの人気でした。

曇って肌寒いほどだった朝方の天候は、昼ころからは日がさして快晴となりました。入園者のみなさんと声をそろえて10からカウントダウンし、大きなアーチ型のネットなどに入れておいた風船も一緒に、ゼロの合図で放ちました。

色とりどりの風船は、南東のやや強めの風に乗って天高く舞い上がっていきました。拍手も起きました。

1965年(昭和40年)の開園の日にも、同じイベントを行いました。

● 写真展・工作教室

さまざまな50周年記念事業を

展開していますが、朝日新聞社と共催して一年を通して園内外で写真展を開きます。

内周道路沿いでは20カ所に古い写真の看板を立て、散策をしながら楽しめる写真展「歴史さんぽ」を開催しています。その場所がかつてはどんな様子だったのか、どんなことがあったのか。写真で振り返ってみてください。

東京・築地にある朝日新聞東京本社では4月18日(土)から30日(木)まで、本館2Fコンコースギャラリーで開催しました。古い写真や現在のイベント、自然の写真50数点だけでなく、その写真が掲載された新聞のシートも展示しました。

5月16日(土)、17日(日)には、東急田園都市線二子玉川駅近くにオープンしたばかりのイツコムスタジオ&ホール二子玉川ライズで開催し、復元ダットサンベビーの展示とかざぐるま工作教室を開きました。イツコムコミュニケーションズも共



催に加わりました。

6月1日(月)から14日(日)までは、横浜市の青葉東急スクエアでも写真展を開催し、土日にはかざぐるま工作教室を開く予定です。

● ジュルとチッチの家

また、田辺三菱製菓から贈られた記念撮影用の「ジュルとチッチの家」を落書き広場に設置しました。改札を入ってきた子どもたちは駆け寄ると、大きさが同じくらのマスケット2羽と並び、お父さんやお母さんのカメラにおさまります。

5月3日(日・祝)から6日(水・休)までは、開園から約8年間活躍した復元こども自動車ダットサンベビーを皇太子記念館の屋根下で展示しました。

小さいころに乗ったことがあるという人たちや、初めて目にする人たちも周りを囲んで熱心に見ていました。

当時、この事業に携わっていた元職員の嶋崎進さん(68)が、ボランティアで説明にあたり、いろいろな質問に答えました。

お願い

こどもの国は、皇太子殿下(現天皇陛下)のご成婚記念事業として、全国から寄せられた国民のお祝い金を基金に、昭和40(1965)年に開園しました。以来、自然の中で子どもたちがのびやかに遊べる施設づくりと独自の遊びの場の提供に努めてきました。

小紙は開園当初からこどもの国の活動や取り組みを紹介し、各地の教育委員会のご協力で、全国の小・中学校に広く配布していただいています。引き続き配布していただくよう、お力添えをお願い申し上げます。

教育 長 各位
教育事務所長各位

社会福祉法人こどもの国協会

こどもの国 6月・7月の催し ☎045-961-2111

- 6月
 - 6日回・7日回 自然スタンプビンゴ 動物や植物、施設などのスタンプを押した台紙を手に園内を回り、同じものを見つけてビンゴをつくる。10時～14時、正面入口広場で受け付け。参加費50円。雨天中止。
 - 6日回・13日回・20日回 あそびの広場 遊びのボランティアによるかざぐるまなどの簡単な工作。11時～15時、プール発券所前。
 - 7日回・14日回 虫とりをしよう どんなどころにどんな虫がいるのか探しながら虫とりに挑戦しよう。10時30分、正面入口広場集合。雨天中止。
 - 7日回・28日回 たんぼぼフリーマーケット 9時30分～16時、中央広場。荒天中止。主催はたんぼぼフリーマーケット。出店希望は☎042-782-7684まで。
 - 13日回・14日回 軽スポーツであそぼう フラフープ、なわとびなど遊具の無料貸し出し。10時～15時、中央広場。雨天中止。
 - 14日回 フラフープ教室 フラフープギネス記録保持者、フープマン・ユーヤによる教室。13時～15時、中央広場。雨天中止。
 - 15日回 ノルディックウォーキング歩こう会 歩くなら効率的に！ ノルディックウォーキングに挑戦してみませんか。電話受け付け中。定員60人。雨天6月19日回に順延。
 - 20日回・21日回 大道芸に挑戦しよう ボールやディアボロなどのジャグリング道具の無料貸し出し。10時～15時、中央広場。雨天中止。
 - 20日回・21日回 皿回しをつくらう 紙皿で皿回しの道具をつくる。10時～15時、中央広場。
 - 21日回 紙飛行機を飛ばそう 輪ゴムを使って飛ばす紙飛行機をつくる。町田紙飛行機倶楽部のスタッフが指導。11時～14時30分。なかよし広場。雨天中止。
 - 21日回 紙芝居ライブ 「心をつなぐ紙芝居の会」による公演。11時、13時、15時の3回。児童センター視聴覚室。
 - 27日回・28日回 ザリガニ釣り大会 集まった人でザリガニを釣って重さを競う。ザリガニを入れるプラケースを持参。プラケース、エサ、つり糸の販売もあり。13時～15時、白鳥湖売店前。雨天中止。
- 7月
 - 4日回・5日回 セタかざり 短冊に願い事を書いて笹に飾ろう。10時～16時、正面入口広場。雨天中止。
 - 4日回・5日回 笹プレゼント セタかざり用の笹を15時から正面入口広場で配布、なくなり次第終了します。雨天中止。
 - 4日回・5日回 自然スタンプビンゴ 6月と同じ。
 - 4日回・11日回・18日回 あそびの広場 in セせらぎ 6月と同じ。セせらぎ前のテント。雨天中止。
 - 6日回 ノルディックウォーキング歩こう会 6月と同じ。6月15日回13時から電話受け付け開始。定員60人。雨天7月10日回に順延。
 - 11日回・12日回 軽スポーツであそぼう 6月と同じ。
 - 12日回 フラフープ教室 6月と同じ。
 - 18日回 屋外プール・オープン 8月31日回まで。10時～16時。入場は15時30分まで。

プール利用の際の料金表

	プール入場料 (別にこどもの国 入園料が必要)	セット券 (こどもの国入園料 +プール入場料)	プールメイト (期間中のこどもの 国入園料 +プール入場料)
おとな	600円	1,100円	4,000円
小・中学生	300円	450円	2,000円
幼児(3歳以上)	300円	350円	1,500円

- 18日回～20日回 ペットボトルロケットを飛ばそう ペットボトルに紙パックの翼をつけて飛ばしてみよう。500mlのペットボトル2本持参。10時～15時、中央広場。雨天中止。
- 19日回・20日回・25日回・26日回 セせらぎ工作 簡単な工作指導。19日・20日「ストローとんぼ」づくり、25日・26日「ばっちゃんカエル」づくり。10時～15時、セせらぎ。雨天中止。
- 19日回 紙飛行機を飛ばそう 6月と同じ。
- 19日回・20日回・26日回 たんぼぼフリーマーケット 6月と同じ。
- 26日回 紙芝居ライブ 6月と同じ。
- 26日回・8月2日回 夏休み昆虫教室 昆虫の生態観察。11時、野外炊事場に集合。定員60人。小雨決行。7月6日回午前9時から電話予約受け付け。
- 26日回・8月2日回 セミの羽化とカラスウリの花観察会 セミの羽化と夕暮れに開花するカラスウリを観察。18時30分、多目的広場に集合。20時30分ごろまで。小雨決行。定員各日120人、参加費600円。7月6日回午前9時から電話予約受け付け。
- ◇児童センター工作教室 開始時間は10時30分、13時、14時の3部制。定員は各部15人、参加費300円。▽6月14日回ビー玉万華鏡づくり▽28日回野菜スタンプづくり▽7月5日回七夕カードづくり▽19日回・20日回スライムづくり
- ◆わくわく焼き物体験 開始時間は午前の部10時30分、午後の部13時。児童センター。定員は各部20人、参加費700円。仕上がりは約2カ月後。▽6月7日回ペン立てづくり▽21日回シーサーづくり▽7月12日回ひも作りカップづくり▽26日回ウェルカムプレートづくり
- こどもの国牧場の催し■ ☎045-962-0511
- ◇バターづくり教室/日曜 13時、ミルクプラント2階。開園と同時にミルクプラント売店で受け付け。先着12組、参加費1組500円。
- ◇チーズづくり教室/日曜 14時、ミルクプラント2階。開園と同時にミルクプラント売店で受け付け。先着8組、参加費1組500円。
- ◇乳搾り体験/土曜・日曜・祝日 11時、牧場牛舎前。開園より牧場エサ売り場で整理券配布。先着50人(4歳以上)、参加無料。雨天中止。



グランプリ 光家瑞穂さん

今回で3回目となった「春のフォトコンテスト」は、応募141点のなかからグランプリに光家瑞穂さん(相模原市)、準グランプリには窪田俊彦さん(横浜市)の作品が選ばれました。それぞれ副賞としてCanonミニフリース一眼カメラ、Canonコンパクトカメラを贈呈しました。作品募集期間は3月20日(金)から4月13日(月)まででした。

笑顔が咲いた

春のフォトコンテスト

こどもの国賞

能戸崇志さん



今回から「春の風景」と「家族や友人、グループ」が一緒に写った写真が対象になりました。こどもの国賞には能戸崇志さん(町田市)、松本昇さん(横浜市)、飯野聡子さん(大田区)の作品が選ばれ、こどもの年間パスポートを贈りました。以上の5人の受賞者への講評は以下の通りです。

光家さん「背丈の高さに咲いた花を見つけてうれしそうなお子。サクラを背景に男の子と女の子の動きがとても自然で、淡い光が美しい。秀逸な作品になった」

窪田さん「下から見上げた構

こどもの国賞

松本 昇さん



能戸さん「二人の表情が素晴らしい。家族だからこそそういう写真が撮れる。曇天だが、明るい印象の作品になっている」

松本さん「ピンク色の背景の中で、手が強調された斬新な構図。子どもとしっかり手をつなぐ母の愛情が伝わってくる」

飯野さん「子どもの躍動感が楽しい。4人4様の動きの瞬間を的確にとらえた。画面下の草の緑も全体を引き締めている」

図が面白い。青空に映えるサクラと家族がうまく一枚に納まった。寝転んで懸命に撮影しているお父さんの姿を想像するとほほ笑ましい」



今回は牛の一生を紹介いたします。のんびり屋なイメージが強いかもしれませんが、けっこう波乱万丈な「人生」です。

牛は生まれたらすぐにお母さんと離れ離れになります。別々の暮らしに早く慣らさないと、お母さんがいなければ餌を食べなくなってしまうからです。

子牛は最初、カーフハッチと呼ばれる部屋でお乳を飲みながら40日間ほど暮らします。子牛

牧場さんぽ

「のんびり屋さん」じゃないよ！ 波乱万丈な牛の一生

の保育園に移動すると同時に乳離れをし、草などの餌を食べ始めます。このころから、お客さまからエサをもらったりして人に徐々に慣れていきます。

約半年後には育成舎へ、さらに半年後にはひょうたん池横の放牧地に移し、こどもを産んでもらうために人工授精をします。それから約10カ月後に子牛を産むと、朝夕の1日2回お乳を出すようになります。

産んでから2カ月たつころをピークに乳量が落ちるため、また人工授精をします。そうすると10カ月後には子牛を産むので、お乳がたくさん出るようになるのです。

出産2カ月前になると、乳搾りをやめます。出産に備えて体を休めると同時に、いいお乳を出す準備にもなります。

年を取ると子どもを産めなくなったり、お乳が出なくなったりします。私たちが牛を飼える

のは、牛が出してくれたお乳を売って牛の餌を買うことができます。ですから、牛がお乳を出してくれなくなると餌を買うことができなくなってしまう。

残念ですが、そんな牛にはお肉になってもらいます。ちなみに、黒毛和種のような純粋な日本の品種ではない牛の肉は、「スーパー」などに並ぶときには「国産牛」と表記されます。

乳を出すことができないうお乳が生まれると、生後1〜2週間で他の牧場に移されます。そして、2、3年後にはやはりお肉になります。

このように牛の人生を見てみると、わたしたち人間の為に尽くしてくれていることがわかります。ですから、私たち飼育員は牛のびのびと生活できるようにがんばっています。その成果なのか、野生を忘れるのか、牛たちは人前でものんびりとお昼寝をしています。ゆったりと過ごしている牛たちに会いに来てください。

(牧場 青木 翠)

各地のこどもの国 6月・7月の催し

(詳しくは各園ウェブページを参照)

- 北海道子どもの国(砂川市) ☎0125・53・3319
- 霊山(霊山)こどもの村(福島県伊達市) ☎024・589・2211
- 千葉こどもの国「キッズダム」(市原市) ☎0436・74・3174
- 愛宕山こどもの国(甲府市) ☎055・253・5933
- 富士山こどもの国(静岡県富士市) ☎0545・22・5555
- 愛知こどもの国(西尾市) ☎0563・62・4151
- 岐阜県こどもの国(養老町) ☎0584・32・0501
- びわ湖こどもの国(滋賀県高島市) ☎0740・34・1392
- 鳥取砂丘こどもの国(鳥取市) ☎0857・24・2811
- 沖縄こどもの国(沖縄市) ☎098・933・4190



ユウスゲすくすく

開園50周年を記念して、天皇陛下からいただいたユウスゲが順調に育っています。春に株を植えたばかりなのでまだ分かりませんが、7月には黄色でかわいらしい花を目にすることができるとも思われます。

ユウスゲは浅間山周辺などの高原に生えるユリ科の多年草で、高さは1メートルにもなりません。夏に花をつけますが、夕

方に開花して翌日の昼にははしょんでしまわれます。

この3月に、開園50周年ということで御所の庭にあったユウスゲ50株をいただき、皇太子記念館周辺と落書き広場横に植えました。どちらも日当たりのいい場所、もともと丈夫で育てやすいということもあって、背丈は当初の15センチから50センチほどに伸びました。

ユウスゲは、陛下とは縁の深い草花です。思い出の地軽井沢ではよく見ることができ、皇太子時代に東宮御所でも育てられました。軽井沢のユウスゲが少

なくなってきたとの話をお聞きになり、2003年には約12000粒の種をご下賜されました。

皇后陛下の御歌にもユウスゲは登場します。

かの町の野にもとめ見し夕すげの月の色して咲きあたりしがかつておたずねになつた軽井沢の野ではユウスゲが月の色をして咲いていた、と懐かしんでお詠みになりました。

こどもの国も、大きく育ったユウスゲを増やしていけば、何年後にはユウスゲの群生地になつているかもしれません。



準グランプリ 窪田俊彦さん



こどもの国賞 飯野聡子さん



そのほか入賞の方々

(副賞には、それぞれオリジナルグッズ贈呈)

- 味の素賞
窪田春菜さん、真鍋純一さん、根本かれんさん、田中珠李さん、山口ペイウエンさん
- FMヨコハマ賞
平井誠一さん、安藤陽平さん、石橋千鶴子さん、神林江里奈さん、伊藤哲朗さん
- アサヒカメラ賞
二階堂多実子さん、吉澤辰美さん、山本美穂さん、大城有紀子さん、林典子さん
- Canon賞
柳山登紀子さん、大塚涼子さん、門脇丈詩さん、鈴木明子さん、真木郁徳さん、幸田孝之さん、岩岸徹さん、荒井麻里江さん、吉澤麻紀さん、三浦麻黄さん (順不同)

雨に歩けば 紅白の花咲く

もうじきジメジメとした梅雨ですが、雨でも思いきって傘を片手に出かけませんか。水滴をまといつてみずみずしく咲く紅白の花を、道端や空き地で見つけることができるかも

しれません。

みなさんおなじみのクローバーです。クローバーというのは、シロツメクサやムラサキツメクサなどの総称です。それぞれ緩衝材、牧草として日本に持ち込まれました。どちらもヨーロッパ原産で、小さな花が集まってポンポンのような形をしているのが特徴です。両者の違いは四つほどあります。

雨に歩けば、赤色のシロツメクサは茎が地を這うように伸びていきます。人に踏まれるなどの刺激を受けて、四つ目の葉っぱがでやすくなります。一方、ムラサキツメクサは茎が立ち上がるため、刺激を受けて四つ葉ができることがあります。また、四つ葉を探すと、おもしろい発見があります。

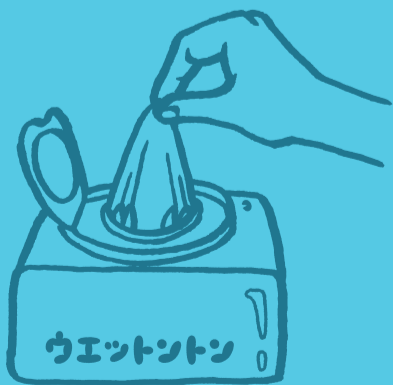
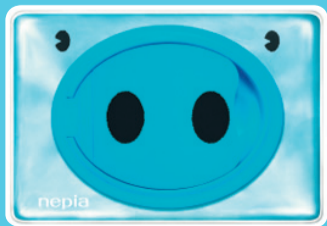
し、どちらも四つ葉は簡単には見つかりませんのでご注意ください。2種類とも、夜になると葉を閉じます。理由は説明されていませんが、夜はお休みしているなんて面白いですね。天候によっては夕方暗くなる前から見ることができそうです。お子様連れでの観察に最適です。四つ葉以外にも、クローバーを見つけたら注意して探すと面白いものがあります。名前とは逆に、赤色のシロツメクサは写真上と白色のムラサキツメクサは同下とがあるのです。そんなめずらしい紅白クローバーを見つけたら、それもまた幸運に違いありません。

(プロ・ナチュラリスト 石井 碧)



ネピア ウエットトン!

除菌 ウエットティッシュ



領域をこえ 未来へ OJI

やわらか♥ハート nepia



イラスト・池下章裕

「今日はマニアックな話をします。専門用語も使います」と話した通り、宇宙技術開発に貢献した研究者の名前を挙げ、ロケットの構造などを大型スクリーンで説明しました。

國中さんは壇上から降りて客席の間を歩き、時に質問をしながらかつて話を進めました。

このはやぶさ2に続いて昨年12月に打ち上げられたはやぶさ2ではプロジェクトマネージャーを勤め、3月末に技術開発に力を注ぐためにポストをかわったばかりです。

國中教授は、初代はやぶさ2探査機の推進力を担うイオンエンジンの開発を担当し、動かなくなったエンジンを、ひそかに仕組んだ回路で復活させ、絶望視されたはやぶさ2の帰還を成功に導きました。



小惑星探査機「はやぶさ2」の開発、打ち上げを成功させた宇宙航空研究開発機構（JAXA）の國中均教授の講演会が4月19日、皇太子記念館で開かれました。親子連れなど幅広い年齢層の聴衆320人を前に、はやぶさ2のことだけでなく科学や宇宙について話し、子どもたちにいい意味での「専門バカ」になれと熱く語りかけました。

「専門バカ」になれ!

JAXA國中さん熱弁

國中教授は、初代はやぶさ2探査機の推進力を担うイオンエンジンの開発を担当し、動かなくなったエンジンを、ひそかに仕組んだ回路で復活させ、絶望視されたはやぶさ2の帰還を成功に導きました。

國中さんは壇上から降りて客席の間を歩き、時に質問をしながらかつて話を進めました。

このはやぶさ2に続いて昨年12月に打ち上げられたはやぶさ2ではプロジェクトマネージャーを勤め、3月末に技術開発に力を注ぐためにポストをかわったばかりです。

國中教授は、初代はやぶさ2探査機の推進力を担うイオンエンジンの開発を担当し、動かなくなったエンジンを、ひそかに仕組んだ回路で復活させ、絶望視されたはやぶさ2の帰還を成功に導きました。

國中さんは壇上から降りて客席の間を歩き、時に質問をしながらかつて話を進めました。

このはやぶさ2に続いて昨年12月に打ち上げられたはやぶさ2ではプロジェクトマネージャーを勤め、3月末に技術開発に力を注ぐためにポストをかわったばかりです。

國中教授は、初代はやぶさ2探査機の推進力を担うイオンエンジンの開発を担当し、動かなくなったエンジンを、ひそかに仕組んだ回路で復活させ、絶望視されたはやぶさ2の帰還を成功に導きました。

國中さんは壇上から降りて客席の間を歩き、時に質問をしながらかつて話を進めました。

このはやぶさ2に続いて昨年12月に打ち上げられたはやぶさ2ではプロジェクトマネージャーを勤め、3月末に技術開発に力を注ぐためにポストをかわったばかりです。

國中教授は、初代はやぶさ2探査機の推進力を担うイオンエンジンの開発を担当し、動かなくなったエンジンを、ひそかに仕組んだ回路で復活させ、絶望視されたはやぶさ2の帰還を成功に導きました。

こどもの国

〒227-0036 横浜市青葉区奈良町 700
 ☎ 045-961-2111 Fax 045-962-1366
<http://www.kodomonokuni.org>

開園時間 9時30分～16時30分 (7月、8月は17時まで)
 入園は15時30分まで (7月、8月は16時まで)

休園日 毎週水曜日 (水曜日が祝日の場合は開園します)、12月31日、1月1日

交通 東急田園都市線・JR横浜線「長津田駅」でこどもの国線に乗り換え7分、「こどもの国駅」下車▽小田急線「鶴川駅」下車、「こどもの国」経由奈良北団地行き小田急バス10分、「こどもの国」下車

入園料	一般	団体		回数券 11枚つづり (6カ月有効)	年間パスポート	
		30人以上	300人以上		年間利用券	ウィークデイパス
おとな	600円	480円	360円	6,000円	10,000円	3,000円
高校生	600円	360円	290円			
中学生	200円	160円	120円	2,000円	5,000円	1,000円
小学生	200円	120円	90円			
幼児※	100円	80円	60円	1,000円	4,000円	500円

◎平日シルバー割引 65歳以上の方の平日 (土曜・日曜・国民の祝日・休日以外の日) の入園料は300円。入園券売り場で身分証明書など、ご本人の年齢が確認できるものを提示して、「平日シルバー券」をご購入ください。

◎障害者手帳・療育手帳・小児慢性特定疾患児手帳・精神障害者保健福祉手帳などをお持ちの方は本人と付き添い1人が半額になります。入園券売り場で手帳をご提示ください。※幼児は3歳以上です。0～2歳は無料。

駐車場 (1700台収容)	普通車	マイクロバス	大型バス
駐車料 (1日1回の料金)	900円	1,100円	1,600円

◎土・日・祝日は駐車場と周辺道路が大変混雑します。電車・バスのご利用をお願いします。

■雪印こどもの国牧場 〒227-0036 横浜市青葉区奈良町 700
 (雪印こどもの国牧場は、こどもの国の園内にある施設です)
 ご案内 ☎ 045-962-0511 Fax 045-962-0512
<http://www.kodomonokuni-bokujo.co.jp>

歴史ウォッチ
50周年

こどもの国の建設には、当時の一流の建築家や彫刻家、デザイナーらが参加、腕を競い合って独創的な施設をつくりました。

後に東京都知事選に出馬するなどは、1964年(昭和39年)に休憩所(フラワースェルター)を造りました。今も、こども動物園の中に残っています。

動物園のなかだった当時は原っぱの高台にありました。花びらが咲いた形と閉じた形の二つあり、それぞれ幅9メートル、幅

6メートル、高さはともに4メートルです。中にイスと水を飲む器具が設置されています。

この3月に塗装し直したので、色合いは少し違いますが当時の美しい姿を取り戻しました。

独創的建築に高評価

黒川さんは、白鳥湖そばにあったセントラルロッジや、内周道路沿いのあかちゃんの家の場合にあってアンデルセン記念の家も設計。これらの3作品で、1965年に高村光太郎賞を受賞しました。

セントラルロッジは白亜の2階建てで、大きな屋根は富士山のような形で外観の美しさが高い評価を受けました。1988年に解体されました。

アンデルセン記念の家は、美智子妃殿下(現皇后陛下)が児童図書館を希望されたことで建設されました。中にはアンデルセンの生家の模型や全集がありました。1988年に上屋部分を撤去し、後に基礎部分を使って赤ちゃんの家を建てました。

月刊 **1からわかるニュースマガジン juniorAERA**

ジュニアエラ

毎月15日発売 ●定価490円(税込) A4判変型 オールカラー52ページ

ジュニアエラなら、政治も経済も国際問題も
気になるニュースがよくわかる!
大人も知りたい基礎知識が満載。

親子で読める!!
受験勉強にもお役立ち!!

ジュニアエラは
私立中学校の
入試問題や
学習塾の教材にも
使われています。

- 政治、経済から科学、文化、スポーツまで。毎日のニュースをジュニア向けにわかりやすく解説。
- 教科書では学べない新鮮なニュースと深い分析で、中学・高校受験の社会科学にも対応。

お求めは書店、ASA(朝日新聞販売所)でどうぞ。 <http://publications.asahi.com/>